

蒜山地区ジャージー牛 飼養管理の現況

中福田家畜保健衛生所 浅羽 技 師

ジャージー牛導入農家の実態については岡山畜産便り3月号に三秋技師から詳細御報告がありましたのでここにはジャージー牛の冬季、然も積雪期に於ける飼養管理について実態調査の一端を申述べて皆様の御指導なり御教示を仰ぎたいと存じます。

一. 現在の飼育頭数（2月28日現在）

区分 町村	現在頭数 (牝犢は含まず)	搾乳牛頭数	牝 犢 数
川上村	112	25	9
八東村	113	34	17
二川村	45	21	13
中和村	31	4	1
湯原町	22	6	1
計	324	90	41

更に搾乳牛90頭を分娩状況に依って大別すると次の様に分ける事が出来る。

- △輸送中に分娩したもの 19頭
- △購買地で妊娠、現地到着後分娩したもの 32頭
- △当地で受胎分娩したもの 39頭

又産地別に乳牛頭数を見ると

- オーストラリア産 78頭 24%
- ニュージーランド産 244頭 75%
- アメリカ産 2頭 1%

殆んどのがニュージーランド産の牛で品位、体型、資質等オーストラリア産のものよりすぐれている様である。

二. 泌乳状況

泌乳状況についてもやはり前記の3段階に区分して考えられる。

分娩牛の状態	平均乳量 11月31日	最高乳量	分 娩 期
輸 送 中 に 分娩したもの	5.33	12.3	30.4-8月
外地で妊娠現地で 分娩したもの	6.1	16.3	30.10-12月 分娩
現 地 で 妊 娠 分娩したもの	11.47	18.72	30.10月以降

輸送中分娩したものは昨年12月導入牛で輸送途中天災の為現地到着時の栄養極めて悪く起立不能のものさえ見られると言った状態で乳量に期待出来得なかったことは致し方ないことであつた。

これに反して現地で受胎分娩したものは気候にも飼養管理にも割に馴れて居り条件的に悪い冬期間にもかかわらず1斗以上を泌乳したのも見られ8升、9升程度のもも珍らしくない。乳量に関しては大体初期の予想以上に期待出来た。

一方脂肪率は2月の平均4.8%で聖書に示す5.2%には今の処いささか劣る。

然し乍ら搾乳技術の練磨或は牛乳取扱の一寸した注意で5%台に上る事は左程困難ではないと思う。

三. 飼料の給与状況

(1) 飼料の種類と利用件数

品 目	給与件数	合計数量 給与件数	合計数量 調査件数
わ ら	42	3.01	3.01
乾 草	35	3.44	2.87
蕪 菁	23	2.48	1.36
甘 藷	7	3.26	0.54
サイレージ	37	12.38	10.91
乳 配	30	1.87	1.34
麩	13	1.68	0.52
大 豆 粕	9	1.35	0.31
大 豆	9	0.58	0.125
米 糠	5	1.05	0.125
大 麦	2	1.00	0.024

本調査は1月24日1日分の飼料給与量でほとんどのものが搾乳牛でその日の平均乳量は11.71kg（6升5合）であつた。

このうち購入飼料を当地での価格から算定すると次の様である。

岡山畜産便り1956.05

品 目	K当り単価	総 平 均	金 額
乳 配	円 28.3	kg 1.87	円 銭 52.92
麩	24.0	1.68	39.32
大豆粕	44.0	0.31	13.64
大 麦	35.0	0.024	0.84
計			106.72

今かりに3.2%40円で乳脂率0.1%増減する毎に1円増減の北酪の基本価格から算定すれば4.8%の牛乳6升5合は約390円となりそれに対して前記購入飼料が106円72銭で約27.3%で冬期の飼料費としてはまずまずと言った処であろう。

四. 乳牛1頭の飼育管理に要する時間

調査対象は搾乳牛が主体であったが相当の時間を要しており今後の検討を要するものと思われる。

然し当地方の農閑期は南部二毛作地帯と異り愈々閑でそうしたことからこうした数字が出たのではないと思われる。

区 分	1日所要時間	1回所要時間	%
飼 付	分 39.1	分 9.8	% 12
搾 乳	96.7	24.2	29
肥 出 し	26.4	6.6	8
手 入	32.6	10.9	9
牛 乳 出 荷	39.5		13
運 動	71.3		22
そ の 他	22.8		7
計	323.4		

(備考)

(イ) 飼付は1日4回夜は乾草のみ給与

(ロ) 搾乳は2-3-4回

(ハ) 肥出しは搾乳毎に行う

(ニ) 手入は朝行う者、昼、夕に行う者等まちまちで其の比率は朝35%昼59%夕6%であった

(ホ) 運動は日光浴を含めての時間である

(ヘ) 其他は哺乳等に要する時間

五. 飼育管理の担当者

区 分	飼 付 担 任 者			搾 乳 担 任 者			備 考
	件 数	百分比	順 位	件 数	百分比	順 位	
世帯主	25	44.6%	1	6	19.3%	2	三男 三女
同人妻	16	28.5	2	13		1	
弟					41.9		
長 男	7	12.5	3	1	16.1	3	
長 女	6	10.7	4	5			
次 女				3			
その他	3	3.7	5	3			

日常ジャージー牛の飼付なり搾乳を行っている人について調査したところ上表の様な成績が出た。

更に男子、女子の比率を見ると次のようになる。

区 分	男 子		女 子		平均 年齢	備 考
	件 数	%	件 数	%		
飼 付	件 33	% 58.95	件 23	% 41.05	才 33.7	
搾 乳	14	45.2	17	54.8	28.5	

上表からして可成り搾乳ともなれば女子の進出が目立って来る。これは当地方の冬仕事が炭焼き薪作り等可成り重労働で自然女子が留守番役で搾乳等受持つのではなかろうか。

六. その他

(1) ジャージー牛の妊娠期間

まだ調査頭数が少く決定づける事は出来ないが現在迄に判明する成績は次の通りで可成り妊娠期間が短い様である。

性 別	調査 件数	妊 娠 期		
		最 日	最 日	平 日
メス	件 14	日 281	日 261	日 273.2
オス	19	283	269	275.6

(2) 仔牛生時の大きさ

分娩して第1回の哺乳をする迄即ち分娩後3-4時間漸く起立してヨチヨチ歩く程度のものを対象に測尺して見た。

大体ホルスタイン種の仔牛に比較して50-70%程度の大きさであった。

岡山畜産便り1956.05

母牛の	区分	産犢の 性別	体高	体長 (巻尺)	胸囲	管囲	体
			cm	cm	cm	cm	kg
貸付時すでに妊娠していたものの生産仔牛	平均	メス	60.26	55.17	60.17	7.6	15.64
		オス	62.00	59.00	59.50	8.6	19.90
蒜山で受胎	平均	メス	62.25	58.16	62.40	8.9	21.17
		オス	65.25	59.70	64.62	9.4	23.74
分娩したものの生産仔牛	最高	メス	69.00	61.00	68.00	10.0	24.50
		オス	70.00	64.00	73.00	10.0	26.63
牛	最低	メス	58.00	50.00	56.00	8.5	16.46
		オス	58.00	55.00	51.00	8.3	21.75

◎現地受胎分娩したものの調査件数メス6件，オス9件

七. 結び

ジャージー牛の現況について一応現在迄に判明しておるところの数字を基礎にして申述べた次第で飽迄も蒜山の酪農は安定した経営を目指して安い乳を然も良い乳をより多く生産するべく一層の研究と努力を重ねたいと存じます。

今後一層の御指導なり御教示をお願い致します。